

校訓 「くじけるな のびよ身と心 大望をもて」



あかぎ

赤木名の子らよ、大木になれ・七本のあかぎ

5月号 平成27年5月25日(月)発行

## 親子の絆を考える

校長 平野 浩

児童会で話し合っ、朝の始業時間前にボランティア活動と朝のランニングに取り組んでいます。これまでの卒業生も行ってきたもので、よき伝統としてがんばっています。

台風6号の塩害の影響で、学校の赤木等の落ち葉が毎日ひどい状況です。その清掃ボランティアを毎朝行っているのですが、6年生が修学旅行の時にも、4・5年生を中心にがんばってくれました。とても多くの量でしたが皆いっしょうけんめい取り組み、朝から気持ちよく学習に取り組むことができました。さらに、役所の方々も手伝っていただきました。子どもたちのがんばりはもちろん、地域の中の学校として、地域の方々の協力に感謝いたします。

さて、家庭とは、「家」に「庭」と書きます。ここでいう「庭」とは、木や草が生えている庭とは違います。「心の庭」のことです。心の庭とは、くつろぎの場、ほっとする場、ストレス解消の場などです。子どもが生まれて最初に出会うのは母親です。子どもにとって人生最初の師は親といわれています。格言に「一人の賢母は百人の教師に勝る」という言葉があります。母親の役割の重要性を表した格言です。

アメリカのドロシー・ロー・ノルトは、家族についての研究に取り組み、家庭教育について多くの著書を出版し、「子は親の鏡」として次のようなことを言っています。

### 【子は親の鏡】

ドロシー・ロー・ノルト

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子どもは不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引込みみじめな子になる

親が他人をうらやんでばかりいると、子どもも人をうらやむようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

ほめてあげれば、子どもは、明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは、がんばり屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいい所だと思えるようになる



子どもへの接し方を悩んでいる方には、参考になる言葉だと思います。また、ドロシーは、「親として一番大切なことは、子どもに何を言うかではありません。また、心のなかで何を思っているかでもありません。子どもと一緒に何をするか、なのです。親の価値観は、行動によって子どもに伝わるのです。」とも言っています。

子どもを育てていくうえで、親が子どもを育てることを幸せに感じ、子どももお父さん、お母さんの子どもでよかったと思えるような、信頼感と安心感のある家庭づくりのために、子どもの声をよく聞き、子どもの行動をしっかりと見つめ、子どもとの関わりを深めていくことが大切なのではないのでしょうか。

※ 小学生が関わった交通事故や水難事故等が全国で起こっています。また、22日深夜に奄美地方で大きな地震が起き、笠利も震度4を記録しました。梅雨時の衛生も含め、交通事故や水難事故、ハブ咬傷、地震や津波（避難の仕方や避難場所の確認等）等に気をつけましょう。